

## 1 和光市災害時通訳・翻訳ボランティアの確保、研修の実施 和光市災害時通訳・翻訳ボランティアの運用方法について

- (1) 第5回懇話会会議での意見
  - ・登録しているボランティアへのマニュアル等の認知、コミュニケーションを図ることが必要である。
  - ・国際ネットワークに加入してもらうなど、ボランティア同士の交流を図ることが必要である。
  - ・災害時にボランティアの配置について、優先順位を定めておかなければならない。
  - ・月に1回程度、外国人が集まれるようなイベントがあると良い。
  - ・普段からボランティアの方々と交流や研修する機会があれば災害時の備えになる。
- (2) 第6回懇話会会議での意見
  - ・ボランティアの質を上げることに合わせ、災害時に何人のボランティアが必要で、現在のボランティア数が足りているかを把握しておくことも必要である。
  - ・災害時通訳・翻訳ボランティアのボランティア保険料は、自己負担であるために、保険料がネックとなっている人もいると考えられる。

## 2 緊急時における外国籍市民の意見・要望の把握 意見・要望の調査方法について

- (1) 第5回懇話会会議での意見
  - ・留学生のコミュニケーションは強い。
  - ・外国人に必要な資料を配付するのに、自治会や民生委員を活用する。
  - ・若い世代を含め、日頃から交流をもてる機会が必要である。

## 3 災害時の情報発信 発信手段や発信内容について

- (1) 第5回懇話会会議での意見
  - ・face book や Twitter などの SNS を使った発信方法が、早く情報を伝達することができる。
  - ・和光市のホームページは、必要な情報がすぐに分かりづらいので、整理して分かりやすくすることが必要である。
  - ・外国人同士が連絡を取り合えるようになるイベントを開催する。
  - ・メーリングリストを作成し、災害情報を送信する。
  - ・海外と連絡を取るときに Skype、MSN がよく使われるので、そのようなツールを活用する。
- (2) 第6回懇話会会議での意見
  - ・東日本大震災では市内の被害はなかったが、電話が通じないことやスーパーに物が

なくなるなど、日本人も混乱したが、外国人にとっては、そのような状況も災害であると考えられる。そのようなときの対応を知らせておくことも必要であり、誰に伝えたら、どこまで伝わるかなど、外国人のコミュニティ、ネットワークを把握しておくことが必要である。

- ・情報発信の意味を含めて、町丁字別の外国人登録数を参考にして、外国籍市民のコミュニティ、ネットワークを把握しておけばよい。

#### 4 避難用多言語シートの設置

##### 災害時に有効に機能させるには

- (1) 第5回懇話会会議での意見
  - ・和光市のどこに外国籍市民が多く住んでいるか調査することが必要である。
  - ・普段からの心がけと災害の意識を持ってもらうことが重要である。
  - ・会話セットに何が書いてあるのか分かりづらいので、表記に工夫が必要である。
  - ・緊急時に使用するシート、それ以降に使用するシートと分けて対応する。
- (2) 第6回懇話会会議での意見
  - ・阪神淡路大震災の際には、「やさしい日本語」が非常に役立ったと言われている。災害時における意思疎通の手段として、「やさしい日本語」の活用方策に取り組んで欲しい。
  - ・「やさしい日本語」には、これが正解というものはなく、実践を通じて色々と工夫していくことが大切である。
  - ・ボランティアの方を含め、自治会の方々など多くの人に多言語シートの使い方を説明することが必要である。
  - ・多言語シートについては、どうしても洩れてしまう人がいるため、やさしい日本語を使って表現することが重要である。日本語教師、消防関係、病院関係者等の有志のワーキングチームを作って、外国人にわかりやすいかを具体的に検討し、和光市独自のやさしい日本語による避難所シートを作成することを提案したい。

#### 5 その他

- (1) 第5回懇話会会議での意見
  - ・各地域のホームページでは、大震災での成功事例等が掲載してあり、他の地域における成功事例からファクトファインディングすることも必要である。
  - ・大規模な災害では近隣市との関係も重要である。
- (2) 第6回懇話会会議での意見
  - ・市境や県境などは外国籍市民には分かりにくい。県の協定よりも、和光市の周りの市と連携しなければならない。
  - ・市として、外国人にわかりやすい内容の災害対策講座を公民館などで行うことが必要である。